

日産化学工業KK	○武内	淑子
お茶の水女大家政	清水	文子
	林	雅子
	矢部	章彦

1. 昨年度に引きつづき、各種繊維白布の増白処理条件による増白効果と市販白布の増白度、ならびにそれらの露光による変化を、さらに広範囲の繊維布について検討した。今回は主としてアクリル、ナイロン、ポリエステル白布などの結果を中心に報告する。

3. ポリエステル、ナイロンには Uvitex ERN を、アクリルには Blankophor ACF を用いて、それぞれ増白効果が最大となる処理条件を検討すると共に、それらの耐光性を比較した。また、これらの繊維の市販白布についてもその増白度および露光による変化を検討した。

増白度の判定は、キセノン光源、積分球を付置した日立分光光度計による分光反射スペクトルの測定を基礎として計算した測色値、および試作の FW, FB, FG などのスケールによる肉眼判定などによった。露光は当研究室試作のキセノン光源による露光装置使用。

3. Uvitex ERN によるポリエステルの増白は、2.0% o. w. f. 120°C, 60 分処理で最高の増白効果が得られ、市販ポリエステル白布も殆んど同程度の増白度を示す。耐光性は著しく高い。これに対してナイロンは、Uvitex ERN 1.0% o. w. f., 100°C, 30分処理で市販白布をやや上まわる増白効果が得られるがその耐光性は極めて低い。またアクリルでは、Blankophor ACF 15%, 100°C, 30分の処理で増白度は市販白布と同程度となるが耐光性は極めて低い。これらの結果を測色学的数値とスケールによる肉眼判定とから比較検討した。